

㈱AIRDO 代表取締役社長 表敬訪問



8月10日(月)、㈱AIRDOの谷寧久代表取締役社長等が中経連を訪れ、伊藤専務理事等と懇談した。

懇談では、谷社長から「今年の冬ダイヤ(10月25日)より中部―新千歳線、中部―函館線を開設し、計画では新千歳線を1日3往復、函館線を1日1往復する予定である。今回、わが社にとって初めての中中部圏での就航となり激戦が予想されるが、ビジネスと観光の両方の需要を見込んでおり挑戦していきたい」との挨拶があった。

これに対し、伊藤専務理事は「中部国際空港の旅客数は一時低下したが、昨年度は1,000万人弱まで回復している。中経連として昇龍道プロジェクトに取り組んでおり、今後、北海道の人たちにも中部圏の魅力を知ってもらいたい」と述べた。

(社会基盤部 奥山 基樹)

道路・空港に係る要望活動

■8月19日(水)西知多道路の整備促進を要望

要望先：国土交通副大臣、財務省幹部等

訪問者：愛知県、中経連 等

<主な要望内容>

西知多道路は、国際拠点空港の中部国際空港と新東名高速道路(伊勢湾岸自動車道)を直結するとともに、名古屋高速道路を經由してリニア中央

新幹線(名古屋駅)と結び、中部国際空港へのアクセスの充実、定時性の確保、利便性の向上、災害時における緊急車両の通行等に役割を果たすことが期待されている。今年4月からは国による国際空港へのアクセスや周辺の高速度道路ネットワークを踏まえた、効率的・効果的な整備手法の検討調査が実施されている。

このような中、「国際拠点空港と高速自動車国道を直結するこの道路は、国が責任を持つべきである」との考えのもと、来年度に新規事業化を図ること、予算を確保し、緊急かつ計画的に事業推進すること等を要望した。

(社会基盤部 和田 耕一郎)

■8月24日(月)東海北陸自動車道・東海環状自動車道の建設促進を要望

要望先：国土交通事務次官

訪問者：岐阜県、富山県、三重県、中経連 等
<主な要望内容>

東海北陸自動車道は、約6割の区間が未だ暫定2車線であり、交通渋滞や正面衝突事故の要因になっている。そのため、昨年4車線化工事が開始された白鳥IC～飛驒清見IC間の平成30年度までの早期整備、飛驒清見IC～小矢部砺波JCT間の4車線化の早期事業化等を要望した。

東海環状自動車道は、沿線地域の活性化、中部圏の産業発展等の効果から早期全線開通が期待されており、既着工区間の早期整備、未着工区間の早期工事着工による平成32年度までの全線供用等を要望した。

また同日、要望活動に先立ち東京都内にて開催された東海北陸自動車道建設促進同盟会と東海環状道路建設促進期成同盟会の合同定期総会には、三田中経連会長が経済界代表として古田岐阜県知事、石井富山県知事、石垣三重県副知事等とともに出席した。

その中で、三田会長は「全国各地で地方創生が取り組まれる中、地方の多様性と連携を促進する『コンパクト+ネットワーク』の強化はますます重要

である。そのためにも北陸との連携を促進し、南北軸を形成する東海北陸自動車道や大都市圏の環状道路としてバイパス機能を果たす東海環状自動車道は重要な道路である。また、それぞれの物流改善のみならず、地域への産業集積や防災の観点からも、両道路については早期に整備されることを期待している」と挨拶を述べた。

(社会基盤部 山口 智)

■ 8月25日(火) 中部国際空港二本目滑走路をはじめとする機能強化の要望

要望先：中部国際空港拡充議員連盟

訪問者：愛知県、中経連 等

<主な要望内容>

二本目滑走路を始めとする機能強化の実現に向けた環境整備のため、国が主体となって必要な調査事業を実施すること、空港利用者の利便性向上のための道路・鉄道等アクセスの充実に取り組むこと、伊勢志摩サミットの開催に向け、ファーストレーンの設置をはじめとした機能強化に対応すること等を要望した。

(社会基盤部 和田 耕一朗)

27年度「あいち女性の活躍促進プロジェクト」の紹介に続き、愛知中小企業家同友会代表理事・エイベックス㈱代表取締役会長の加藤明彦氏より「女性活躍に向けた中小企業における取組 一採用と活かし方」をテーマにゲストスピーチが行われた。

その後の意見交換では、県の行った調査結果や企業ヒアリングで明らかとなった「企業の大多数を占める中小企業で取り組みが進むための方策」、「女性社員や就職前の女子学生等への意識付け」等の課題やゲストスピーカーからの問題提起を踏まえた議論が交わされた。

その中で、中村副会長は「経営トップの間にも、女性の活躍促進の重要性が認識されてきている。今後もトップが組織の中にメッセージを伝え続けることが重要。女性管理職を増やすには、女性の採用数を増やす必要があり、そのためには企業が職場の環境整備や職場風土の改善に取り組んでいく必要がある」と述べた。

(企画部 村田 純一)

第17回中部の観光を考える 百人委員会総会

第4回あいち女性の活躍促進会議



8月25日(火)、愛知県、経済団体、大学、企業等のメンバーで構成する「あいち女性の活躍促進会議」の第4回会合が名古屋市内にて開催され、中経連から中村副会長が参加した。

大村愛知県知事の挨拶、堀井副知事からの平成



8月31日(月)、行政や経済団体、観光関連団体等で構成する「中部の観光を考える百人委員会」(会長：岡谷東海商工会議所連合会会長、副会長：三田中経連会長ほか)の第17回総会が名古屋市内にて開催された。

吉田観光庁観光地域振興部長、鈴木中部運輸局長等による来賓挨拶に続き、「観光地域づくりと

広域連携について」をテーマに意見表明が行われ、三田会長は「各地域の観光資源をネットワーク化していくことが必要。また、そのためには産・官・学・民が知恵を出し合い、県の境を越えた広域的な連携を一層深めていかなければならない」と発言した。

(社会基盤部 高井 勇輔)

定例記者会見



9月7日(月)、中経連は総合政策会議終了後、三田会長の定例記者会見を行った。

はじめに、三田会長は中部圏のお盆期間の出入について、空・陸とも昨年の夏を上回ったことを紹介した。

次に、経済情勢について、8月17日に発表された4～6月期のGDP速報値が、年率換算で前期比1.6%減となったことに触れ、その要因として、

天候不順などにより「消費」がマイナスとなったこと、中国経済の減速の影響などにより「輸出」がマイナスとなったことを挙げた。

景気の先行きについては、わが国経済の状況が堅調なことを理由に、今後も緩やかな改善が続いていくとしつつも、世界のGDPに占める割合が約13%と、アメリカに次ぐ経済大国である中国の動向が、わが国を含む世界経済へ与える影響が大きいとし、その動向を注視していく必要があるとの認識を示した。

続いて、8月31日に名古屋市内で行った「第12回中央日本交流・連携サミット」について報告するとともに、今回のテーマであった「地方創生」について、少子高齢・人口減少社会の中で成し遂げていくことが、中部圏としても大変重要な課題であると述べた。

また、8月14日に新たな国土形成計画が閣議決定されたことを踏まえ、中部圏の広域計画の策定を、自身が会長を務める中部圏広域地方計画協議会で、今年度末を目途に策定を進めていくと述べるとともに、策定にあたっては、中部圏が長期にわたってわが国経済をけん引し続け、安全・安心で住みやすく、働きやすい地域となるような計画にしていくと意気込みを語った。

最後に、上田税制委員長が同委員会で取りまとめた「平成28年度税制改正に対する意見」(本誌2～4ページ参照)の公表を行った。

(総務部 伊藤 邦広)

会員入会のお知らせ

9月7日(月)開催の正・副会長会および総合政策会議において、承認された新入会員をご紹介します。

■株式会社トヨタレンタリース名古屋

[登録者] 代表取締役社長 小栗 成男 [所在地] 名古屋市熱田区金山町一丁目3-3 [TEL]052(671)0100

■丸栄工業株式会社

[登録者] 代表取締役社長 高木 繁光 [所在地] 岡崎市洞町字鷹野2-1 [TEL]0564(77)9900